

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
M314M204		臨床病理学 (Clinical Pathology I)					コース共通専門分野								
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態						
必修	2	2	医学部先進医療科学科	前期	金2	日本語			複数(共同)						
担当教員	氏名 内田 智久、泥谷 直樹、塚本 善之														
	E-mail tomohisa@oita-u.ac.jp 内線 5693														
授業の概要	病理学は、病気の原因とメカニズムを明らかにすることを目的とする。疾患の理解には組織、分子レベルでどのような変化が生じているかを理解することが重要である。病理学総論においては、疾患を理解するうえで共通となる概念について学修する。病理学各論においては、総論の理解を踏まえ、各臓器における具体的な疾患を学び、それぞれの病態を理解する。さらに症例検討の中で病理学総論・病理学各論で学んだ知識を応用して病態生理を組み立て、疾患をその基盤となる組織・細胞・分子レベルで説明できるようにする。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1 疾患を理解する上で共通となる病理学的概念について説明できる															
目標2 各臓器の具体的な疾患からそれぞれの病態を説明できる															
目標3 症状や病理学的所見から病態生理を組み立てることができる															
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)									5	5					
授業の内容															
1 病理学 イントロダクション (内田 智久)															
2 病理学総論 細胞障害、細胞死と適応 (泥谷 直樹)															
3 病理学総論 急性および慢性炎症 (塚本 善之)															
4 病理学総論 組織の修復：再生、治癒、線維化 (塚本 善之)															
5 病理学総論 循環障害 (泥谷 直樹)															
6 病理学総論 感染症 (泥谷 直樹)															
7 病理学総論 免疫系疾患 (泥谷 直樹)															
8 病理学総論 腫瘍 (塚本 善之)															
9 病理学総論 遺伝性疾患および小児の疾患 (内田 智久)															
10 病理学各論 口腔・消化器1 (内田 智久)															
11 病理学各論 口腔・消化器2 (内田 智久)															
12 病理学各論 肝臓・胆嚢・胆管 (内田 智久)															
13 病理学各論 膵臓 (泥谷 直樹)															
14 症例から病態を学ぶ(病理組織診断と細胞診断)(内田 智久)															
15 症例から病態を学ぶ(疾患と病理診断)(内田 智久)															
ラーニング目標	A:知識の定着・確認								工夫その他の	症例問題をグループごとに担当して、その病態生理について発表・討論会を行う。					
	B:意見の表現・交換														
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修		配付資料や参考文献等の情報を必要に応じて予習する(25h)。												
	事後学修		授業で学習を活かし、理解を深める(35h)。												
	想定時間合計		60												
教科書	教科書は指定しない														
参考書	ロビンス基礎病理学 10 版 Vinay Kumar (著), Abul K. Abbas (著), Jon C.Aster (著), 豊國 伸哉 (監修, 翻訳), 丸善出版、2018 年 Robbins and Cotran Review of Pathology, 5th edition Edward C. Klatt MD (著), Vinay Kumar MBBS MD FRCPath (著), Saunders、2022年														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		期末試験	80%									
	症例検討発表会	20%										
注意事項												
備考												
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の実務 経験	医師											
実務経験を いかした教 育内容	臨床の現場で必要となる知識を習得させる。											